

本科2期12月度

解答

Z会東大進学教室

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



## 24章 総合問題 24

### 問題

【1】

A.

#### 全訳

自分の衣服や身なりに不注意でだらしのない人は、往々にして、他の事柄についても不注意なものである。なるほど、偉人は時として外見に無頓着であるが、その結果偉大なのではなくて、それにもかかわらず偉大なのである。

B.

#### 全訳

言葉は伝達の手段である。④まず第一に言語は話されるものであり、書き言葉は話し言葉の代用品でしかない。もっとも、書き言葉は、有用な、かつ現代の世界においては必要不可欠な、話し言葉の代用品ではあるが。⑤言語がなければ、共同体とか社会というものは、それらの言葉が表すいかなる真の意味においても、存在することはないだろう。というのは、最も低い知的レベルにおいてさえも、他のいかなる人とも、接触することが不可能になってしまふからである。言語の存在がなければ、自分の考えを伝達することも、他人から伝達された考えを共有することも不可能であろう。私たちは、他人に何か話したい、何か尋ねたい、何か教えてあげたいと思うことがあるかもしれないが、いずれの場合であっても、そうしたことをするためには言語を用いなくてはならないのである。

C.

#### 全訳

⑥婉曲的な言葉遣いは競争によって不自然に、また危険な形で成長するが、これは広告や最上級の贅辞を表す言葉、強調語がそうなるのとほとんど同じといって良いくらいである。1つの婉曲語は、数年経つともう1つの婉曲語にとって代わられ、その新しいものはまた順番がくると、廃れてゆくのである。このことの適切な例で、人間の一生くらいの間にその変化が起ったのが、精神病院の意味の婉曲語である。⑦ madhouse という名称は不愉快なものである。そこで、人間は社会的動物であるから、それに本来の実体を表す名称よりは心地よく響くような名称をつけなければならない。人は精神病院のことを、初期の頃はまず Bethlehem (ベツレヘム) と呼んだ。これはキリストの生誕に捧げられた慈善団体で、のちに精神病に苦しむ人々を保護する機能を持つようになったことから来た名前である。そこからベドランという名が生まれた。そのベドランという言葉がいくら我慢しても上品に聞こえなくなった時、我々は Asylam (アサイラム) という言葉を考案した。アサイラムというのは大変美しい言葉である。そこは当然のこととして休息と平和に満ちているに違いない。というのも、それは安全な避難所を意味する言葉であるからである。しかしアサイラムという言葉も百年も経たないうちに古くなってしまった。⑧今や我々は Mental Hospital (精神病院) という言葉を使うようになった。mental (メンタル) という言葉がす

でに貧乏人の場合には気のふれた人を意味しているということは、（そして、もしかしたら、金持つについても同様に意味するようになるということは）神のごとく優れた人間の知性に対する悲しい賞賛の言葉である。人は Mental Hospital（精神病院）という表現にも恐れを抱くようになった時、どんな婉曲語を使うようになるのであろうか。

## 【2】

### ポイント

空所補充問題や和訳問題を中心とした長文総合問題である。文章全体の理解を問う出題はないが、前後関係を正しく把握していないと解答できない問題が多く、段落ごとに趣旨を把握しながら正確な読み取りを行うことが要求される。また、和訳問題が多いため、文構造の把握力や語彙力も必要となる。

### 解答

- (1) ① c      ② b      ③ k      ④ e      ⑤ a  
(2) ⑥ b      ⑦ c      ⑧ f      ⑨ a      ⑩ g      ⑪ d      ⑫ h      ⑬ e  
(3) 「全訳」の下線部⑪, ⑫, ⑬を参照。  
(4) ランの醸造所では、ワイン作りにおいてワインの品質を重視しているということ。(37字)  
(5) ③ e      ⑥ g  
(6) ⑭ E

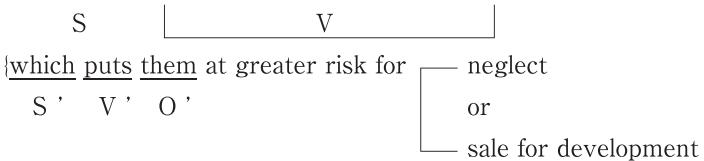
### 解説

- (1) ① 空所を含む文の前の2文で、長年使われてきたコルクに代わる代替物 (alternatives) が用いられるようになったことが述べられている。空所の後の topping many fine wines とは「多くの上等なワインの頂部を覆っている」つまり「瓶の栓として用いられている」という意味なので、この文では、スクリューキャップが現在で数多くのワインで使用されていることを説明している。したがって a popular ( ) (人気のある ( )) の空所に入れるのに最も適切な語は c option (選択肢) である。
- ② Cork oak ~ provides ( ) for more than 100,000 people で「コルクガシの木は～10万人以上の人々に ( ) を提供している」という意味になる。空所を含む文の前文では、「スクリューキャップの普及によりコルク林が脅かされている」という内容が述べられているが、空所を含む文はその背景となるコルク林の恩恵を述べた文である。よって、この文脈に合う選択肢は、b income 「収入」である。
- ③ 空所の後に romantic ties to cork (コルクへのロマンチックな絆 [愛着]) という表現があるので、空所にはスクリューキャップに対する気持ちが入ると推測できる。「スクリューキャップに対する消費者の ( ) が薄くなるにつれてスクリューキャップは足場を固めたようだ」という文脈に合うのは、e resistance (抵抗; 反感) である。
- ④ 空所の前の seeing some consumers ask for screw caps は「消費者の中にはスクリューキャップを望む人がいるのを目にしている」という意味で、'see + O + 動詞の原形' (O が…するのを見る) の構文。for 以下がこれにつながるようにするには、空所に a ease (容易さ) を入れて、for ease of use 「使いやすさを理由に；使い

やすいので」という表現にすれば、意味が通る。

- (2) ⑥ urging wineries to の形から, 'urge + O + to …' (Oに…するように促す〔勧める〕) という to 不定詞を使った構文であることが推測できる。空所の直後に to basics (基本に) という表現があることから, b return (戻る; 帰る) を入れて、「ワイン醸造所に基本 (=コルクの使用) に戻るように勧めている」という意味にするのが最も適切である。
- ⑦ the fiber (繊維) と from cork trees 「コルクの木から」をつなぐ語が空所に入る。made from the fiber 以下は過去分詞の句として前の a renewable material を修飾している部分なので、空所に述語動詞は入らない。したがって過去分詞として fiber を修飾する c stripped (はぎとられた) が最も適切な選択肢とわかる。
- ⑧ 空所の前の動詞 have seen に着目して 'see + O + C' (OがCであるのを見る) の C にあたる語が空所に入ると推測する。すなわち, O に当たる the overall production of wine stoppers (ワインの栓の (文脈からコルク栓と考えられる) 総生産量) が過去 10 年間でどうなったかを表す語が空所に入る。コルク離れが進んでいるという段落の流れに最も合うのは a の drop (落ちる; 低下する) である。
- ⑨ 空所の前の箇所で、「コルク離れが進めば 10 年以内に西地中海地域のコルクガシの林の 4 分の 3 が失われる」という WWF の見積もりが書かれている。この内容と jobs and ecosystems (職と生態系) をつなぐ単語として最も適切な選択肢は d threatening である。これは threaten (～を脅かす) という他動詞の現在分詞であり、分詞構文となって、‘付帯状況’を表す。
- ⑩ Estimates (見積もり; 推計) という主語に対する述語動詞が空所に入る。空所の後の逆接を表す接続詞 but 以下で具体的な数値について言及されていることから 判断すると、最も適切な選択肢は e の vary (異なる; さまざまである) である。

- (3) ⑪ Cork forests are predominantly privately owned.



○ predominantly *adv.* 「圧倒的に; 主に; 大部分は」

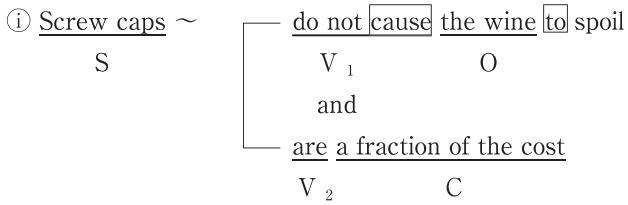
○ are privately owned 「私的に所有されている; 私有である」

○ which puts them at greater risk for ~ : which の述語動詞 puts が三人称単数であることから, which の先行詞は Cork forests ではなく, which の前の部分全体であることがわかる。したがって which は「そのこと [このこと]」という意味であり, which puts them at greater risk for ~ で「そのことがコルク林 (= them) を, ~の危険性がより高い状態にさらす」または「そのことにより [そのため], コルク林は~の危険性がより高くなる」という意味になる。

○ for neglect or sale for development : for neglect と (for) sale for development

の2つに分けて考える。neglectはここでは名詞で「軽視；放置」の意味があるが、「放置されること」が適訳。developmentはここでは「(土地)開発」であり、sale for developmentで「土地開発のための売却」という訳になる。

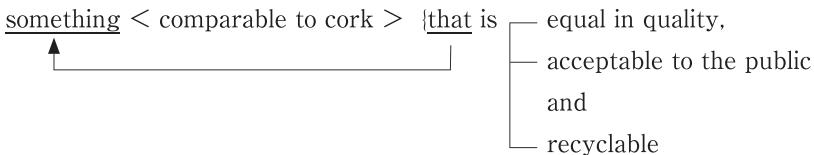
- if the popularity of cork lessens 「コルクの人気が下がれば」この条件節は主節 Cork forests are ~ ではなく which puts them ~ の節にかかる。



- by comparison 「それと比べると；それに対し」
- cause + O + to … 「Oが…する原因となる；Oに…させる」
- spoil *vi.* 「台無しになる；駄目になる」
- a fraction of ~ 「わずかな〔ほんの少しの〕」fractionは「断片；小部分；少量」という意味。a fraction of the costで「費用も(コルク栓に比べると)ごくわずかである」といった意味になる。

- ② ○ sooner or later 「遅かれ早かれ」

- come up with ~ 「～を考え出す〔考え付く〕」



- that is equal in quality, acceptable to the public and recyclable : thatは関係代名詞で、先行詞は something である。that 節は文末まで続いており、equal in quality(品質が同等で)、acceptable to the public(一般の人たちが許容できる；一般の人たちに受け入れられる)、recyclable(リサイクルが可能で)の3つの形容詞(句)はすべて that is の補語にあたる。

- comparable to ~ 「～と肩を並べる；～と比べて遜色ない；～に匹敵する」

- (4) be about ~ で「～が最も重要な目的である；(…とは)～するということだ」の意を表す。

*Ex. Leadership is about the ability to implement change.*

(指導力というのは、変化を実行する能力のことである。)

したがって、下線部の意味は「我々にとって、ワイン作りで大切なのはワインである。」となる。この内容を本文に即してわかりやすく説明する。

下線部のセリフは前の段落で senior winemaker with Argyle Winery in Dundee, Oregon と紹介されている Willie Lunn のセリフである。したがって、For us とは「我々の醸造所にとって」の意味であり、この文は彼の醸造所の姿勢を示していると考えられる。下線部の前の発言に「スクリューキャップに移行した理由は純粋に品質の観点からである。」という発言に続く部分なので、この醸造所がワイン作りにおいて

て品質重視の姿勢で臨んでいるということが読み取れる。この内容を解答としてまとめる。

- (5) まず下線部の後ろを読み、文脈を確認しよう。cleaning up ~ drying methods までは、新しい手法を導入してコルクの汚染を減らす試みが述べられており、続く The world's largest ~ で始まる文には、コルク製造業者が多額のお金を使って品質改善を行ったとある。よってこの段落は、需要の減少に対するコルク製造業者の対策を述べた段落だと考えられる。

これをふまえて並べ換えるを考える。cleaning 以下は分詞構文になっているので、下線部で文として完結するようにする。述語動詞になる可能性がある語としては did / fled / react の3語があり、主語になる可能性がある名詞は options / the cork industry / winemakers である。残りの語句と文脈を考慮しながら、これらをどう組み合わせるか、さまざまな可能性を考えていくとよい。

文の主語は cleaning 以下の分詞構文の意味上の主語でもあるので空所①を the cork industry とする。述語動詞は did か fled となるが、「コルク産業が逃げた」ではおかしい。したがって、did を‘強調’の助動詞として後ろに react を続けると、the cork industry did react (コルク産業は確かに反応した) という前半部分ができる。

残りの選択肢から fled to ~ (～に逃げた) という動詞部分ができる。あとは、コルクからスクリューキャップに移行しているという本文のここまで流れをふまえれば、後半は as を‘時’を表す接続詞として用い、as winemakers fled to other options (ワイン醸造業者が他の選択肢に逃げる中) とまとめられるだろう。

したがって全体で The cork industry did react (as) winemakers fled to other options となるので、空所に入る選択肢は順に f → a → e → (as) → h → b → g → d → c である。したがって、空所③に入る語は e、空所⑥に入る語は g である。

- (6) まず、この文章の意味を確認しよう。

- That is what won ~ back to cork : win ~ back で「～を（努力の末）取り戻す」の意味。what は先行詞を含む関係代名詞である。したがって、「これが～をコルクに回帰させたものだ〔このため～はコルクを再び使用するようになった〕」の意。
  - who once successfully sued his cork maker over taint : sue ~ は「～を訴える」。over taint は「汚染をめぐって」。「かつて、採用していたコルクメーカーを汚染をめぐって訴え勝訴した」の意。
  - the level of taint has been dramatically reduced 「汚染の程度が劇的に減少した」
  - the cork industry's new innovations 「コルク業界の新たな革新」
- つまりこの文章は、コルク業界の革新によりコルクが再度採用された事例を示している。冒頭の That が革新の内容を指していると考えられるから、この文章は、コルク業界の改善努力について記述した段落の後に入る。よって、正解は⑩。

### 全訳

コルクか、それともスクリューキャップか——ワインボトルの閉め方をめぐる争いにおける主要な議題である。

コルクは長年にわたり標準的な栓として用いられてきた。だがコルクにはワインを台無し

にするという問題があったため、ワイン醸造業者は過去10年の間に代替物へと移行し始めた。スクリューキャップは人気の選択肢となり、今や、100ドル以上の価格で販売されるナバのプランプジャックワイン醸造所の一部の瓶など、多くの上等なワインの栓として用いられている。

だが、一部のワイン醸造業者と環境団体は、コルクが環境のために最適の選択だと言って、ワイン醸造所に基本に戻るように勧めている。

コルクは再生可能な材料である。すなわち、コルクの木からはがした纖維で作られており、その後その木は再生することができる。この収穫したコルクの、世界で最も広く使われ、最も大きな利益を生む用途がワインの栓としての利用である。

いくつかの環境団体が、スクリューキャップのような代替物の人気の上昇によって、コルクが主に栽培されている地中海地域のコルク林が脅かされていると述べている。世界自然保護基金（WWF）によると、コルクガシの木はこの地域で約271万ヘクタールの土地を覆っており、10万人以上の人々の収入源となっているのだ。

⑥コルク林は主に私的に所有されており、そのため、コルクの人気が低下すれば、コルク林が放置されたり土地開発のために売却されたりする危険性がより高くなる。

コルク製造業者によると、過去10年間でワイン栓の総生産量の低下が見られる。そして昨年WWFは、ワイン醸造業者のコルク離れが続けば10年以内に地中海地域西部のコルクガシ林の4分の3が失われ、職と生態系を脅かす可能性があると見積もった。

持続可能性の問題に影響を受けることが多いが、過去にコルクの品質の問題による損害も被ってきたワイン醸造業者にとっては、これは複雑な問題である。

ワイン醸造業者をコルクから遠ざけた主たる問題は「汚染」であった。コルクの汚染とは実際は、TCA（トリクロロ酢酸）と呼ばれる化合物のことであり、かびと塩素とその他の有機化合物との相互作用の結果生じるもので、ワインを飲めなくしてしまうかび臭さと風味を発生させる。

見積もりはさまざまであるが、一部のワイン醸造所は、過去に自分たちのワインの15%もが汚染されていたと述べている。⑦これと比べるとスクリューキャップは、ワインを台無しにすることもなく、費用もごくわずかである。しかしながらスクリューキャップは、通常再生不可能な材料で作られている。プラスチックがはめこまれたアルミニウムが一般的で、そのことも、リサイクルを困難にしている。

だが環境上の懸念は、一部のワイン醸造業者に対しては、影響を及ぼすには十分ではない。オレゴン州ダンディーのアーガイルワイン醸造所のワイン醸造長であるウイリー・ランいわく、彼の会社では2002年にスクリューキャップのみの使用に移行し、当面はそれを続ける予定だという。

「スクリューキャップに切り替えた理由は、純粹に品質の観点によるものです。私たちにとって、ワイン作りで一番大切なのはワインなのです。」とランは言う。

そして、消費者のスクリューキャップに対する抵抗またはコルクへのロマンチックな愛着はある程度薄れてしまったため、スクリューキャップは足場を固めたように思われる。ワイン醸造業者によると、使いやすさを理由にスクリューキャップを望む消費者も一部に見られるようになったという。

ワイン醸造業者が他の選択肢へと逃げる中、コルク業界も、よりよい木を用いたり、より迅速な乾燥法を採用するなど、汚染を減らすために、製品を清潔にし、生産過程の検査をするなどして確かにこれに対応した。世界最大手のコルク製造業者、アモリン社では、これまで品質改善に数百万ドルを費やしたという。

⑩これにより、オレゴン州ターナーのウイラメットバレーのドウ園のオーナーであるジム・ベルノーは、かつては採用していたコルクメーカーを汚染のかどで訴え勝訴したこともあるのだが、再びコルクを使用するようになった。彼は、コルク業界のいくつかの新たな革新によって、汚染レベルが劇的に下がったと述べている。

だが問題はまだ解決されていないと言う人もいる。

オレゴン州ニューバーグのadelusハイムズドウ園の醸造家であるデーヴ・ペイジは言う。「これは非常に複雑な問題です。私にとってはコルクは問題ないものです。ただ私は、  
⑪遅かれ早かれ、コルクと比べて遜色ない、品質が同等で、一般の人たちに受け入れられ、リサイクルが可能なものを誰かが考え出すことになると認識しています。そうなれば論争にも終止符が打たれます。」

### 注

ℓ. 2 ◇ closure *n.* 「ふた」

◇ for ages 「長い間；長年にわたり」

ℓ. 3 ◇ ruin ~ *vt.* 「～を台無しにする」

ℓ. 12 ◇ Mediterranean *adj.* 「地中海（沿岸）の」

ℓ. 14 ◇ World Wildlife Fund (WWF) 「世界自然保護基金」

ℓ. 22 ◇ sustainability *n.* 「持続可能性」

◇ be burned 「損害を被る」

ℓ. 33 ◇ stay put 「じっとしている；その状態にとどまる」

ℓ. 36 ◇ to some degree 「ある程度まで」

ℓ. 40 ◇ screen ~ *vt.* 「～を検査する」

ℓ. 43 ◇ unresolved *adj.* 「未解決の」

ℓ. 45 ◇ acknowledge that … 「…だと認める」

ℓ. 47 ◇ Then the conversation is over. 「そうすれば、会話が終わる。」

コルク対スクリューキャップの論争に終止符が打たれることを意味する。

## 【3】

### ポイント

1つのテーマが与えられて、それについて自由に論じる問題である。自由英作文で合格答案を作る秘訣は、ポイントを明確に絞り込み、説得力のある展開にすることである。また、80～100語という語数指定なので、あまり段落を細かく分けない方がよい。英語の文章の組み立ては、まず自分の主張を明らかにして、次にそれを具体的に裏付ける事実や例を挙げていくのが基本である。語数に余裕があれば、別の表現でもう一度主張を繰り返すとよい。

### 解答例

I don't think university students should have part-time jobs, except during long

vacations. Since they studied so hard to get into a university and their parents are paying a lot of money, they should take full advantage of it and concentrate on studying. What's the point of attending a university if you don't put yourself into it fully? There are lots of things to learn in university and you have only four years. You should make the best of it instead of wasting your time working part-time. (87 語)

### 別解

I think there are a lot of things students can learn from working part-time. It gives them a chance to experience the real world and to learn the value of money, how to get along with people and many other things that they will never be able to learn in school. It is also important for students to learn to be independent of their parents. They should at least try to earn their own spending money. I am sure what they learn from part-time jobs will be useful after they graduate from university. (93 語)

### 別解

In my opinion, working part-time is a good thing for university students. I am a high school student now and I am not allowed to have a part-time job. All I am supposed to do is study what is written in books. I think there are lots of things I should learn before I start working in the real world. Working part-time during my university years will not only be good training before I go out into the world, but will also help me broaden my view of things. (89 語)

### 解説

大学生がアルバイトをすることのよい点、悪い点について自由に論じるという問題であるが、当然、自分の考えを明確に主張しなければならない。例えば、アルバイトの擁護論を展開する場合、その具体的な理由、つまりなぜアルバイトをするのがよいのか、アルバイトを通して何が得られるかを、説得力をもって説明する必要がある。それと反対の立場をとって、大学生はアルバイトをすべきではない（あるいは休みの期間だけにすべきだ）という主張であれば、そう考える根拠、例えば、学生の本分は学業にあるのだから学業に専念すべきだ、というような理由を述べることになる。いずれにしても、自分の考えの根拠を具体的に書いていくことが重要である。ちなみに、アメリカなどでは、大学生は夏休みの間はアルバイトをするが、普段は学業に専念するというのが普通で、もしそれで費用が足りなければ銀行から学生ローンを借りて卒業後に返済するというような学生も多い。

- 「アルバイトをする」 work part-time ; have a part-time job
- 「学業に専念する」 concentrate on studying [one's study]
- 「大学で」 in school
- 「～を（最大限に）利用する」 take (full) advantage of ~ ; make (the best) use of ~
- 「～に打ち込む」 put oneself into ~
- 「…することに何の意味があるのか；…しても意味がない（反語）」 What's the point of …ing?
- 「…して時間を無駄にする」 waste one's time …ing
- 「実社会の経験をする」 experience the real world

- 「お金の価値を学ぶ」 learn the value of money
- 「わざわざ…する」 go to the trouble of …ing [to …] ; take the trouble to …
- 「勉強が第一である」 studies come first
- 「～うまくやついく」 get along (well) with ~
- 「時間をやりくりする」 manage one's time
- 「学業とアルバイトを両立させる」 manage one's studies and a part-time job ; study while working part-time
- 「親から自立する」 be [become] independent of one's parents。 depend on と違い、前置詞が of になることに注意。
- 「小遣い」 spending money

## 【4】

### 解答

(1) pudding (2) conditioner (3) and (4) tire [tyre] (5) ending

### 解説

- (1) 日本語の「プリン」は英語の pudding の発音を日本語的に曲解したものである。ただし、英語の pudding は、甘いものからそうでないものまであり、豚の血・脂を入れた black pudding というものもあるくらいなので、日本語の「プリン」は正確には、caramel pudding あるいは custard pudding と言う。
- (2) 「エアコン」の装置は air conditioner で、日本語の「クーラー」に相当する英語である。cooler は「冷却装置；(ピクニック・釣り用) 保冷容器」であって、air conditioner とは別物。
- (3) 「ハムエッグ」は ham and eggs で、この and は「二者一体」を表し、通例 [n] といった弱形で発話される。  
*cf. bread and butter [brédnbʌtər] (バターを塗ったパン)*
- (4) 「タイヤがパンクする」は、人や自動車が主語の時は、have [get] a flat (tire) と言うので tire が正解。イギリス英語では tyre ともつづる。またタイヤが主語の場合は、go flat / blow out / be [get] punctured と言う。
- (5) 「ハッピー・エンド」は a happy ending である。a happy end という英語もないわけではないが、方言である。

## 【5】

### 解答

(1) a (2) b (3) c (4) c (5) c  
(6) c (7) c (8) a (9) c (10) b

### 解説

(1) 「ワシントンはアメリカ合衆国の首都で、コロンビア特別区にある。」

a capital 「首都」

b Capitol [the ~] 「(米国の) 国会議事堂」

- c general 「将軍」  
d president 「大統領」
- (2) 「ウォール街は、ニューヨーク証券取引所や他の金融機関が置かれている場所だ。」
- a educational 「教育の」  
b financial 「金融上の」 *cf. the financial circles* (財界)  
c medical 「医学の」 *cf. a medical checkup* (健康診断)  
d military 「軍隊の」 *cf. a military academy* (陸軍士官学校)
- (3) 「『人民の、人民による、人民のための政治』を提唱したのは、リンカーン大統領であった。」
- “government of the people, by the people, and for the people” は、the Gettysburg Address として有名。
- a cabinet 「飾り戸棚」 Cabinet で「内閣」の意。*cf. a Cabinet Council* (閣議)  
b democracy 「民主主義」 a democracy とすると、「民主主義国家〔社会〕」の意。  
c government 「政治」  
d reign [réɪm] 「統治」
- (4) 「金星とは、太陽系第2惑星で、地球に最も近い惑星の名である。」
- a comet 「彗星；ほうき星」  
b goddess 「女神」  
c planet 「惑星」  
d satellite 「衛星」
- (5) 「『ウサギと亀』の話は、遅くとも確実であれば勝負に勝てるということを教えてくれる。」
- 「野ウサギ」は hare [hɛər] で hair と同音。  
Slow but [and] steady wins the race. は「急がば回れ」に相当する。
- (6) 「エジソンはアメリカの発明家であり、『天才とは1%のひらめきと99%の汗である』と言った。」
- a creation 「創造」  
b desperation 「死に物狂い」  
c perspiration 「汗；発汗」  
d recreation 「元気の回復」
- (7) 「シェイクスピアは英国が生んだ最も偉大な劇作家と考えられている。」
- a composer 「作曲家」  
b critic 「批評家」  
c dramatist 「劇作家」  
d novelist 「小説家」
- Shakespeare (1564-1616) は、劇作家・詩人。
- (8) 「進化とは、何世代にもわたって起こる過程で、動物、植物、昆虫などが身体的特徴を緩やかに変化させる過程である。」

- a evolution 「進化」
  - b pollution 「汚染」
  - c revolution 「革命」
  - d solution 「(物質の) 溶解」
- (9) 「不況とは、国の経済活動が大幅に落ち込む時期のことで、多くの失業や貧困を引き起こす。」
- a bankruptcy 「破産；倒産」
  - b crisis [kráisis] 「危機」複数形は crises [kráisi:z]。
  - c depression 「不況」 *cf.* the Great Depression ((1929年に米国で起こった) 大恐慌)  
※ recession の深刻なものを depression と呼ぶ。
  - d panic 「恐慌」
- 日本語で考えれば、d でもよいのではと考えるかもしれないが、c, d の定義を読めば、c が正解であるのは明らか。
- (10) 「ルネサンスは、イタリアで始まった、14, 15, 16世紀のヨーロッパにおける一時代で、その間、古典芸術や古典文芸への関心が大きく復興したのである。」
- a Reformation : [the ~] 「宗教改革」
  - b Renaissance : [the ~] 「ルネサンス」
  - c Restoration : [the ~] 「(イギリスの) 王政復古；(日本の) 明治維新」
  - d Reconstruction : 「(米国の) 連邦再建 (脱退した南部諸州を南北戦争後、合衆国に統合したこと)」

## 添削課題

### 解答・解説

(1) 「～をどう思いますか」の訳し方

- ① *What do you think of [How do you feel about] the Gulf War?*
- ② *What do you think of [How do you feel about] female soldiers fighting in wars?*
- ③ A : *What do you think of this plan?*

B : I'd think about it twice. I'd like to take at least ten days off.

(2) 仮定法過去

- ① *If I were you, I would accept his offer.*
- ② *If these shoes were one size larger, they would fit me perfectly.*
- ③ *If you resigned, where would the company be?*

(3) get (~) together の用法

- ① Let's *get together* this week.
- ② *Get your things together.* We've got to get going.
- ③ Let me *get my thoughts together.*

〔*get together* には、自動詞の用法として「集まる」「(交渉・話し合いが) まとまる」、他動詞の用法として「～を集める」「(考えなど) をまとめらる」の意味がある。

*cf.* They could not *get together* on the project. (そのプロジェクトについては意見がまとまらなかった。) / I *got together* pictures for an album. (アルバム用に写真を集めめた。)

(4) He worked very hard in order [so as] not to fail the entrance examination again. [He studied really hard so that he would not fail [for fear he (should) fail] the entrance examination again.]

「一生懸命勉強した」は *worked [studied] very [really] hard, worked [studied] as hard as he could* でよい (ただし, *learn hard* というコロケーションは存在しない)。 「入学試験で失敗する」は *fail the entrance examination* (目的語に *examination* がくる場合は, *fail* は他動詞で用いるのが普通)。「…しないように」は *in order [so as] not to do* (not to *do* 単独では不可) とするか, *so that ~ can [will; may] not …*, または, *for fear ~ (should) …* の形を用いる。

## 25章 総合問題 25

### 問題

【1】

A.

#### 全訳

私が幼かった頃、私を動搖させる最悪のことは苦しい試練というものを予測してしまうことだった。子供の頃これは、恐ろしい祖母のところへ行くという形態をとり、学校では水泳、その後は試験であった（もっとも、普通は楽に及第したが）。④このような時の私の気持ちは単なる恐怖ではなくて、断腸の思いとでも言うべき形態をとっていた。それはまるで自分にはどうしようもない力によってなりゆきに任せて私に課せられた規制のために、この世の楽しみを与えられていないかのようであった。私は道路、太陽、車の往来を最後にちらっと見て、大切に記憶に刻み込んだものだった。まるで、そういったものは私には禁じられており、そのような規制は存在しない人間だけが享受するものであるかのように。囚人は背後で門が閉まると、このように感じるに違いない。そしてその中でも最悪なことは、⑤私がこのような苦しい試練に耐えてしまった時にはその試練がどんなものであれ、どうしたものか世の中がつまらなくなってしまうということだった。まるで、自分の苦悩が世の中から輝きを奪い去ってしまったかのように。我ながらあっぱれなことに、使い古された何らかの言い訳をして、家にいようとしたことはない。⑥私自身、体は健康だとわかっていたが、私の恐怖心はそれ自体が病気であった。私はそのような苦しい試練から逃れるように、1人の男としての人生を築き上げようと自ら心の中で誓ったものだった。しかし、この穏やかな秋の夜に私はこのベイカー通りを歩いていて、苦しい試験の最後か、あるいはその始まりか、あるいはその長い連続に直面しているのだ。私は苦しい試験から逃れる意志の麻痺に、完全にではないがほぼ屈服し、目の前にある仕事以外のすべてを頭の中から消し去っていた。

B.

#### 全訳

⑦食物に関しては、私は、幼少の時期はずっと、スパルタ式のしつけを受けていた。もっとはっきり言えば、今日健康と両立すると考えられている程度よりずっと厳しくしつけられていた。私はしばしば夕飯の前にひと寝入りする習慣があったが、寝過ごした時には子供部屋で食事をとり、時間に間に合うように目覚めた時は食堂で食べた。私は子供部屋で食事しようと思って、よく寝過ごしたふりをした。しまいには皆は私が寝過ごしたふりをしているのではないかと怪しんで、ある日、私がベッドで横になっている時、私の体をつつきまわした。私は、人間は眠っている時は体を固くしているものだと思って、体をコチコチにした。ところが私の驚いたことには、皆はこんなことを言っていた。「この子は眠っていない。だって体をコチコチにしているもの。」どうして私が眠ったふりをしていたのか、その理由はついに誰にもわからなかった。私はある日の昼食で、すべてのお皿が取り替えられて、私以外の全員にオレンジが与えられた時のことを思い出す。⑧私がオレンジを食べることを許され

なかった理由は、果実が子供によくないという不動の信念みたいなものがあったからである。私は、僕にもオレンジを下さいと言うのは不作法なことだから、下さいと言ってはならないことを知っていたが、皿だけは与えられていたので、思い切って、「お皿はあるけど何も乗っていないよ」と言ってみた。皆は笑ったけれども、私はオレンジをもらえなかつた。私は果物をまったく与えられず、また、砂糖もほとんど与えられなかつたが、その代わり炭水化物をやたらに食べさせられた。にもかかわらず、私は、11歳の時に軽いはしかにかかった他は一日も病気をしたことがなかつた。私は、自分の子供が生まれてから、子供というものに興味を持つようになって以来、昔の私に及ぶほど健康な子供にはお目にかかつたことがないが、子供の食事についての現代の専門家なら誰でも、私のような食事をしていたら、いろいろな栄養失調の病気にかかっていたはずだ、と思うに違いないと私は確信する。

④ひょっとすると私は野リンゴを盗む習慣のおかげで助かっていたのかもしれない。しかし、もしそのことが知られていたのなら大変な恐怖と驚きを引き起こしていたであろう。

## 【2】

### ポイント

‘主張’→‘具体例’→‘結論’という流れが明確な英文である。ただ漫然と英文を読むのではなく、各段落の要旨を押さえながら読み進めることで、設問を解く際に本文を読み返す時間を短縮できる。

### 解答

- (1) 「全訳」の下線部①を参照。
- (2) 攻撃的な議論をするドイツ人学生。
- (3) 攻撃的に議論し、他人の意見に反論することによって知性や知識を示すドイツ人の態度。
- (4) to begin a professional relationship by criticizing
- (5) 日本人女性ができるだけフランス人の夫の意見に合わせて、夫とうまくやっていこうと最善の努力をしたこと。
- (6) ② a      ③ b      ④ c      ⑤ e
- (7) a ×      b ○      c ○      d ○      e ×
- (8) c

### 解説

- (1) people (growing up in different cultures) have

S ↑ \_\_\_\_\_ | V

very different ideas about what is natural

C

growing up ~ cultures が主語 people を修飾し、have が動詞。what is natural の部分は、what を先行詞を含む関係代名詞として「当たり前であること」と訳してもよいし、what 以下を間接疑問文として「何が当たり前であるか」と訳してもよい。「何が当たり前であるかという考えは、それぞれの人々の育った文化圏によって大いに異なる」や「育った文化圏が異なると、当たり前であることについての考え方も大いに異なる」のように、自然な日本語になるよう工夫するとよいだろう。

- (2) このアメリカ人学生は *them* のようにはなりたくなかったというのだから, *them* は *l. 30* の *his German opponents* を受けるとわかる。ただし、これ自体もさらに前の *German students who* 以下を受ける代名詞のようなもの。単に「議論の相手のドイツ人学生」では不十分で、*pointedly* や *aggressive* などの修飾語をヒントに、その議論の仕方が攻撃的である点も説明に加える。主張の具体的な内容まで含める必要はない。
- (3) 下線部を含む文は、「*This behavior* の結果として、アメリカ人学生は、ドイツ人学生が頑固で物事を正しいか間違っているかの観点で見る傾向がきわめて強い、という印象を持つ」という内容なので、*This behavior* とはドイツ人学生の議論における振る舞いだと考えられる。前文の *intelligence and knowledge ~ aggressively arguing and opposing others' arguments* はドイツ人の考え方を述べているので、ここから「振る舞い」に当たる部分をまとめればよい。*assume* (思い込む) することは表に出るものではないので「振る舞い」の内容に含めてはいけない。
- (4) この *it* は第5文型の *consider* の形式目的語で、これが受けるものは *appropriate* の後の *to* 不定詞である。なお同じ内容は *consider it to be appropriate ; consider it as appropriate* とも表現できるが、*consider O as C* の形は避けた方がよいという考え方もある。*consider O (to be) C 「OをCだとみなす」*
- (5) *This* によってフランス人の夫が別の議論のテーマを探すことに繋がったという文脈。下線部の前から、夫が議論のテーマを探すようになった原因を探ると、*she did her best to agree and simply get along with him* という妻の行動があるので、ここをまとめればよい。このように、*this* などの指示語は前の文の内容（の一部）を指すことがある。
- (6) ⑥空所を含む文の主語の *Observing ~ aggression* の例が第2段落から第6段落で述べられている。そして、第7段落では、これらの例が、議論が親しい個人的な人間関係を築く手段になり得るという、議論についての新しい肯定的なとらえ方が示されている。したがって、空所に入れるのに適当なのは **a** の *perspectives* (視点) である。他の **b** *negotiations* (交渉) などは、どれも文脈に合わない。
- ⑦空所を含む文の主語 *It* は2文前の *a cross-cultural view* を指している。⑥で述べたのと同様に、この部分も第7段落に呼応している。比較文化的な物の見方によって、議論の肯定的な機能をよりよく理解できるようになったのだから、この文脈に合うのは **b** の *deepen* である。他の選択肢は文脈に合わない。
- ⑧空所を含む部分の構造がややわかりにくいが、*recall* の目的語は *conversations with German students ~* である。空所の前の *with* はその後に名詞を伴って‘様態’を表す副詞句を作り、動詞を修飾する。このアメリカ人学生は、攻撃的な議論を仕掛けるドイツ人学生の意見に反論する材料はありながら反論できなかったのだから、空所には **c** の *frustration* (欲求不満) を入れて *with frustration* (いろいろして) とすると文脈に合う。他の **d** *disinterest* (無関心) などは文脈に合わない。
- ⑨ドイツ人学生の態度について述べられている部分。空所の前にあるもう1つの補語 *hostile* (敵意のある) と矛盾しないのは **c** の *rude* (無礼な) である。**a** *convincing*

(人を納得させる；もっともな)など他の選択肢はどれも文脈に合わない。

- (7) a 「フランス人の多くは、歯に衣着せぬ言い方をしないので、フランスでは食事中の白熱した知的な議論はめったに起きない。」これは第2段落の Joanna Repczynski のフランス滞在中の回想と合わない。
- b 「ヨーロッパ人と比べると、アメリカ人は見知らぬ人との意見の対立を避ける傾向がある。」これは第2段落のドイツ人とアメリカ人についての記述、第4段落のイスラエル人とアメリカ人についての記述と一致する。
- c 「個人が感情を表現するやり方は、その人の文化的背景によって異なる。」第1段落第3文で、異なる文化圏で育った人々は当たり前のことについて大いに異なる考え方を持っているとあり、what is natural の例として、1文前に感情の伝え方が挙げられている。また、それが文化圏によって異なる具体例として、第5段落にイタリア系アメリカ人家族の話がある。よってこれは本文の内容と一致する。
- d 「議論の仕方の違いが、ドイツ人とアメリカ人の間の誤解に繋がるおそれがある。」これは第3段落の記述と一致する。
- e 「おおっぴらに議論し、そうすることによって親しい関係を築くことのできる能力は、世界中で高く評価されている。」これは第2段落のフランス人、ドイツ人の例、第4段落のイスラエル人の例、第6段落のフランス人の例には当てはまるが、アメリカ人や日本人には当てはまらない。
- (8) 選択肢の意味は次の通り。a 「問題解決の能力」、b 「議論の仕方—西洋と東洋の比較」、c 「喧嘩するのは親しさの証拠」、d 「どうすれば他人の話に耳を傾けられるか」。本文では、それぞれの文化圏内では当然と思われていることが、文化圏が異なると違うことがあると言い、その例として議論の仕方を取り上げている。そして、国や民族の異なる人間の間での議論にまつわる摩擦の例を挙げつつも、最終段落で、意見の対立が親密な人間関係を築く方法になり得るという考え方を示して結論としている。選択肢の中では c が、これと合致しているので、これがタイトルとして最も適切である。
- a については、本文では議論の仕方については述べられているが、能力についてはふれられていない。b については、本文では西洋と東洋を比較しているわけではない。d の内容は本文ではふれられていないので不適。

#### 全訳

我々は自分たちがいろいろなことをしたり、言ったり、考えたりするやり方がごく当然のもので、当たり前のことであり、人間の本性だと思う傾向がある。妥当だと思われる敵意の程度や、同意や不同意を表すやり方は、当たり前のもの——感情や意思を伝えるわかりきった方法に思えるようになる。しかしながら、④異なる文化圏で育った人々は、何が当たり前であるかについて大いに異なる考え方を持っているし、人間の本性についての前提も大いに異なる。異なる文化圏の人々が、対立や意見の不一致や敵意を、どのように処理するかを観察することが、紛争を処理し、対立を、後ろ向きではなく前向きに利用したいという我々の試みに新たな展望を与えてくれる可能性がある。そのような比較文化的な物の見方は、例えば、どうすれば同じ目的が、違う手段で達成され得るのかという可能性を示唆している。それは、「もし議論好きの文化に問題があるとするならば、他にどんな方法があるだろう？」

という問い合わせに答えを出す手助けとなり得る。それは、不同意や反論の肯定的な機能についての理解を深めもし得るのだ。

多くの文化圏の人々が、議論することは親密さの印であると感じる。これはドイツ、フランス、イタリア、ギリシャなどのヨーロッパの国を訪れるアメリカ人にとって驚きであるかもしれない。例えば、フランスにいたことのあるアメリカ人学生の多くが、フランス人のホストファミリーや友人たちの、歯に衣を着せぬやり方と、彼らが活発な議論を好むことについてコメントしている。フランスでは他の多くの国々と同様に、同意は退屈なものだと考えられている。物事を面白くしておくためには、反対しなくてはいけないのだ。それも、大いに活発であることが望ましい。私のクラスの学生たちは彼ら自身の経験から多くのことを語った。例えば、ジョアンナ・レプチンスキーはフランスで過ごした1年をこう振り返った。

ある日の夕食の間、ステイ先の母親は、私が同意したり、または全員の意見が一致するたびにテーマを変えて、数多くのテーマを取り上げました。食事をしながら熱い知的な議論を開始しようとして、彼女は次から次へと、意見の分かれそうなテーマを持ち出しました。

活発な議論が重んじられる、もう1つの国はドイツである。中央アメリカに特に焦点を当てた政治科学を専攻する1人のアメリカ人学生が、3年生の1年間をドイツで過ごした。後年、彼はいろいろしながら、ドイツ人学生との会話についてまだ思い出すことができたのだが、彼らは、中央アメリカにおける米国の外交政策は、米国の国益だけのためのもので、関係諸国の国益になっていないと、知り合ってまだ間もない彼に手厳しく語ったのだった。彼らはさらに、高い道義的目的だという米国の主張は現実の政策と矛盾しており、それらはどれも事態を悪化させるだけだと主張した。アメリカ人の学生は、ドイツ人の論敵と意見を異にし、彼らの主張に対抗する、数々の具体的な事実も知っていたが、反論することができなかった——それは言葉を喋れなかったからではなく（彼のドイツ語は素晴らしいかった）、彼らの議論のやり方に驚いたからだった。彼らの攻撃的な接し方は、敵意に満ち、無礼に見えたのだ。彼らの攻撃に対抗するためには、彼は同じやり方で反論する必要があったが、相手のようになりたくなかったので、それは彼のしたくなかったことだった。

ドイツ生まれの言語学者ハイディ・バーンズは、なぜアメリカ人とドイツ人が、お互いにに関して否定的なイメージを抱いているのかの説明の中で、この話をする。ドイツ人は知性と知識は攻撃的に議論し、他人の議論に反駁を加えることを通して見せる方がよいと思う傾向がある。この振る舞いの結果として、ドイツ人学生は頑固で、とかく物事を正しいか間違っているかの観点で見る傾向が強いという印象を、アメリカ人学生が持つことになる。さらには、ドイツ人学生が他人を公然とけなしながら自分を自慢して喜んでいるように見える。その一方、アメリカ人がこういう風に議論をすることを拒む結果、ドイツ人は、アメリカの学生は表面的で知識がなく、それゆえ、こうしていろいろな問題で態度を明確にするのを避ける傾向があると結論付けることになる。

来米したイスラエルの教授は、それと反対の経験をした。彼女は自分の専門分野の有名なアメリカ人学者と会ったほとんどその瞬間から、自分と意見が異なる点を列挙し始めた。彼女は、こうすることで、相手のアメリカ人に、自分が相手の研究をいかに丹念に読んだかを

示し、生産的な考えの交換を始めたいと思ったのだ。しかしながら、そのアメリカ人女性教授は、その唐突な攻撃に怒ってしまった。アメリカ人教授は仕事上の関係を批判で始めることを、適當なことだとは思わなかったのだ。そのアメリカ人教授は同じようなことを、それ以上望まなかつたので、相手の滞在中、静かに、だが注意深く彼女を避けた。これは訪問客が成し遂げたいと望んでいたこととまったく正反対のものだった。

このような文化の違いを体験するには、外国へ行く必要はない。さまざまな民族的背景を持つアメリカ人は、単に友人を作ることでそのようなことを体験することができる。私のクラスでこれらの問題を話し合った後で、アンドレア・タラリコがこう書いている。

私は今日の授業で最後に手を挙げた女の子が、典型的なイギリスの家庭では真面目な話し合いが、感情を何も表に出さずにできるのに、イタリア人の家庭では、どのテレビ番組を見るかをめぐって激しく話し合う中で、叫んだり物を投げたりすると論じていたのはおかしいと思います。イタリア系アメリカ人の私の家族は、そのイタリア人家族とほとんど同じです。私の友達は、叫び声が始まるとよく、心配して私の部屋にそっとやって来て、起きていることは大したことではないと私が主張しても、理解も信じもしないのです。

アンドレアはイタリア系アメリカ人の自分の家族のやり方に利点を見出している。「私たちは、お互いがいつもどう感じているかが常にわかっています。」

フランス人男性と幸福な結婚生活を送っている、ある日本人女性は、2人の関係の最初の2年間の大半を涙の中で過ごしたと回想する。彼は頻繁に彼女と議論を始め、彼女はそれに大変当惑して、意見を合わせ、ただ彼とうまくやっていくことに最善を尽くした。このことは単に彼に別の議論のテーマを探させることになっただけだった。最終的に彼女は自制心を失い、大声で言い返し始めた。彼は怒るのではなく、大いに喜んだ。議論を始めるることは彼女への関心を示し、彼がどれほど彼女の知性を尊敬しているかを知らせる、彼なりのやり方だった。彼にとって、活発な議論に加わることができるというのは、良好な人間関係の印だった。

これらの例はどれも、議論が親密で個人的な人間関係を作り上げる方法になり得ることを示している。とは言っても、そのような関係の程度、タイプ、背景は、文化によって異なり得るのだが。

#### 注.....

- l. 2 ◇ common sense 「常識」
- l. 7 ◇ aggression *n.* 「攻撃」
- l. 12 ◇ closeness *n.* 「親密さ」
- l. 22 ◇ controversial *adj.* 「論争の的になる」
- l. 23 ◇ lively *adj.* 「活発な」
- l. 24 ◇ major in ~ 「～を専攻する」
- l. 30 ◇ specific *adj.* 「具体的な；特定の」
- l. 34 ◇ in kind 「同じやり方で」
- l. 35 ◇ relate ~ *vt.* 「～を話す」

- ℓ. 40 ◇ publicly *adv.* 「公然と」  
◇ put down ~ 「～をこきおろす」
- ℓ. 42 ◇ shallow *adj.* 「浅薄な」  
◇ take a stand on ~ 「～に関して態度を明確にする」
- ℓ. 44 ◇ recite ~ *vt.* 「～を列挙する」
- ℓ. 47 ◇ assault *n.* 「非難」
- ℓ. 52 ◇ ethnic *adj.* 「民族特有の」
- ℓ. 60 ◇ big deal 「重大事」
- ℓ. 65 ◇ upsetting *adj.* 「動搖させるような」
- ℓ. 69 ◇ spirited *adj.* 「活発な」
- ℓ. 72 ◇ context *n.* 「背景」

### 【3】

#### 解答例

First, we can see from the graph that what both boys and girls look forward to most in school life is contact with friends. However, this percentage is larger for girls than for boys. Next, more boys than girls have expectations for classes and club activities; particularly, more than twice as many boys as girls are interested in club activities.(60語)

#### 解説

このようなグラフや図表の問題に取り組む上では、次の手順を踏むとよい。

##### ①目立つ特徴をピックアップする。

なぜなら、採点者にグラフのどの点について書いているのかわからせなければならないからである。したがって、グラフの際立って顕著な特徴について書くことがポイントである。この問題であれば「友達とのふれあいを期待している生徒が男女ともに大変多い」、「女子の方が男子よりも友達とのふれあいへの期待度が高い」、「男子の方が女子よりも教科の授業、部活動などへの期待度が高い」などの点が顕著で誰でも指摘できることである。もし語数に余裕があれば、目立つ特徴に加えて、詳細な情報も含めるとよいだろう。

##### ②ピックアップした内容をどの順番で書くかを決める。

男女を対比して述べることが必要になってくるので、対比がわかるように述べる。目立つ特徴を最初に書こう。その際、first, second(ly)などの表現が役に立つ。対比の表現 (on the other hand ; while ; compared to ~など) も構成上有効である。また、グラフや図表のデータの数値を適宜用いることによって、客観的で説得力のある描写を心がけよう。

以下に挙げる表現はグラフ・図表問題を解く上では非押さえておきたい。

##### ○「グラフ」 graph ; chart

*e.g. a bar graph (棒グラフ) / a pie [circle] graph (円グラフ)*

##### ○「このグラフを見れば…ということがわかる」 The graph shows … / We see from the graph that …

##### ○ a half (1/2) ; two thirds (2/3) ; three times (3倍) などの倍数表現

##### ○「～の…パーセント」

e.g. ten percent of the students (生徒の 10 パーセント)

(×) percents とはならないことに注意。

#### 【4】

##### 解答

- (1) No matter how many books you may have (, they are) of no use if you don't read them(.)
- (2) (The effect) of lowering the speed limit was a decrease (in the number of bad accidents.)
- (3) (The best) advice ever given is that you ought not to (ask for any advice.)
- (4) (During his three months' stay in France, John tried) to meet all the relatives of whom he had heard his mother speak(.) [of は文末でも可。]
- (5) (He did not think) that a knowledge of ecology would help him (very much in his new occupation.)
- (6) (The improvement) of the machine might have been impossible but for these experiments(.)
- (7) Give the box a gentle shake to see if (there's anything inside.)
- (8) (She) stayed up all night waiting for him to return(.)

##### 解説

- (1) ○ no matter how ~ S (may) … 「Sがいかに…しようと」  
※ how の直後に、形容詞〔副詞〕がくる点に注意。  
○ of no use = not useful  
⇒ 「何冊本を持っていようと、読まなければ役に立たない。」
- (2) 本文の decrease は名詞。  
○ the number of 無冠詞の複数名詞「～の数」  
⇒ 「制限速度を引き下げた結果、大事故の件数が減った。」
- (3) ever given は the best advice を修飾する形容詞句。The best advice ever given までが主部。  
○ ever 「(否定文または最上級などとともに用いて) 今までに」  
Ex. He is the greatest artist that ever lived. (彼は史上最大の画家です。)  
○ ought not to … 「…すべきでない」  
⇒ 「今までに与えられた最高の忠告は、忠告を求めるべきではないということだ。」
- (4) whom は the relatives を先行詞とする関係代名詞。  
○ relative 「身内」  
※ relative は、親・兄弟も含む点に注意。  
○ speak of ~ 「～に言及する」  
○ hear O … 「Oが…するのを聞く」  
⇒ 「ジョンは 3 カ月のフランス滞在中に、以前母親が話していた親類全員に会おうとした。」

- (5) that は名詞節を導く接続詞。
- a knowledge of ~ 「～を知っている〔知る〕こと」
- knowledge に a がつくのは、通例、a + (形容詞) + knowledge of ~ の構文の場合のみ。
- a = some
- ⇒「生態学を知ったところで、新しい仕事ではあまり役に立たないだろうと彼は思った。」
- (6) 過去の事実に反する仮定法過去完了。
- machine [məʃɪn]
  - but for ~ = without ~
- ⇒「これらの実験なしでは、その機械の改良は不可能だったかもしれない。」
- (7) ○ give A a shake 「Aを振る」
- to see if … 「…かどうかを確かめるために」・目的'を表す副詞用法の不定詞。
- ⇒「中に何か入っているかどうか確かめるために、箱をそっと振ってごらん。」
- (8) ○ stay up all night 「一晩中起きている」
- ⇒「彼女は彼が戻るのを待って一晩中起きていた。」

## 【5】

### 解答・解説

- (1) conscience [ká:nʃəns]
- (a) 「自分自身の考え方や行動についての、個人における善悪感。」
  - with regard to ~ 「～について」
- ※この定義を見てもわかるように、conscience は「(個人における) 善悪感」「善惡の判断力」という意味で、キリスト教徒として生きる際の言動の判断基準になるものである。したがって、「良心」とまったくイコールというわけではない。
- (b) 「彼は罪を犯した後、良心が痛んだ。」
- (2) impulse [ímpəls]
- (a) 「結果を考えずに突然行動したくなる衝動。」
  - (b) 「彼は飛び跳ねたいという抑えられない衝動を感じた。」
- (3) message [mésidʒ]
- (a) 「書き物や話やラジオなどの形態で誰かに送られる情報やニュースや要請など。」
  - (b) 「君のお父さんが病気だという報せを受けた。」
- (4) orphan [ó:rfn]
- (a) 「両親が亡くなってしまった子供。」
  - (b) 「彼は5才の時から孤児であった。」
- (5) portrait [pó:rtrət]
- (a) 「ある人(の特に顔)の描かれた絵やデッサンや写真。」
  - (b) 「彼女は肖像画を描いてもらった。」

## 26章 総合問題 26

### 問題

【1】

A.

#### 全訳

①私の考えでは、宗教というものは第一に、そして主として、恐怖に基づいていると思う。それは1つには未知のものに対する強い恐れであり、また1つには、自分が困ったり言い争ったりしている時には、いつでも助けてくれる兄のような者がいると思いたい欲求でもある。神秘的なものに対する恐怖、敗北への恐怖、死の恐怖といった恐怖こそすべての根底である。恐怖はまた残忍さの生みの親であり、それゆえに過去の歴史において残忍さと宗教が結びついていたというのも不思議ではない。その2つの根底には恐怖心があったがために両者は結合したのである。この世において我々は、科学の助けによって、この頃やっと少し物事を理解し始め、それらを少し支配し始めることができるようになった。科学はキリスト教に対し、教会に対し、すべての古い教義の抵抗に対し、いずれの場合も戦って少しずつ道を切り開いて進んできたのである。⑤科学が我々に教え得ること——我々自身の胸に尋ねてみても同じことを教えられると思うが——は、もはや実際にありもしない助けを捜し回ったり、空中に仲間を作り上げたりすることではなく、この世の中を住みよい場所にする、現世での我々自身の努力に希望を託すようになることである。我々は独立独歩して、良い事実も悪い事実も、美点も醜悪も含めて、正々堂々と世界の実情に直面する。つまり、世界をありのままに眺め、それを恐れないようにしたいものである。⑥そこから生じる恐怖にただ奴隸のように征服されるのではなく、知性を働かせて世界を征服するのだ。

B.

#### 全訳

私はモロと名づけられた馬のことを今でも鮮明に記憶している。彼には私がこれまで知ったり乗ったりしたいかなる馬よりも気力と鋭気があふれていた。むちや拍車で触ると、荒れ狂うのであった。しかし、自分の動作に対しては、自由自在にコントロールできた。⑦モロは私がこれまで所有してきた馬の中で、全速力で走っている時でさえ、急に停止させることができるし、次に首に触ることによって足を軸として旋回するようぐるりと回転させてやることができる唯一の馬であった。こういうことをさせようとすると、モロはすぐに反応するので、こういう動作を気に入っているように見えた。モロの主な欠点は見知らぬ人には寛容でないことで、見知らぬ人によって不用意に近づかれると、後ろ足で蹴飛ばすのが常だったので、家を訪れる客には、この危険な動物には近づくなと、いつも注意しなければならなかった。

⑧ある日モロに乗って帰宅すると、私はそのまま庭に入り、そこにモロを立たせたまま家中へ入っていった。ちょうどその時、家に遊びにきていたどこかの子供、都会からやってきて田舎のことなどまったく知らないどこかの7才の子供が、駆け出していく、モロが長

い尻尾を地面に今にも届きそうに垂らして立っているのを見ると、近づいていって、小さな手を尻尾に巻き込んで体を左右にゆすり始めた。子供の姿が目に入った途端、私はもうその子供は駄目だと思った。というのもモロは怒り狂って首を立てて地面を踏み鳴らしていたからだ。——次の瞬間、その子供の頭は砕かれてしまうだろうと思った。私が子供に向かって大声をあげて叫ぶと、子供は尻尾から手を離して、私のところに怪我1つせずやってきた。誰もが奇跡だ、子供の命を救ったのは神様のおかげだと言った。モロが子供を蹴飛ばしたいという衝動を抑えたのは、モロには理解力があり、自分にこんな勝手なことをしているのは大人ではなくて、無邪気な子供なのだということを知っていたからだ、と私は思う。

## 【2】

### 解答

(1) ① d ② c

(2) ⑤ b ⑥ d

(3) ⑦ moisture / physical

木が根付いている土壌に十分な水分が含まれていない時、その木の物理作用によって葉は完全に乾き、根はしなびて、その成長も衰弱する。

⑧ world / and

私の世界観は、私自身が世の中と触れ合い、そして世の中に反応することに基づいて構築されたのであり、私がその世界を解釈する手法は必然的に私自身の興味に報いるようなものとなる。

(4) (all) of which (I believe) are (missing from the tree)

(5) ⑨ being ⑩ modeling

(6) 木は自己より大きな世界についての内的表象を持たないが、ヒトはそれら表象を、肉体的・社会的欲求とともに空間と時間に対しても持ち、また絶えず自己の接触・反応により構築される自分を中心とした相対的なものとして持つ。これこそが意識であり、それは言わば自己を中心とした大きな世界の一部分に集中することとも言える。(150字)

### 解説

(1) ①まず、接続詞 or と and に着目して構文を考えると、

We cannot point at something,  
as we might point at a hand  
or even a segment of language  
and say, "This is what consciousness is".

となる。as we might point at a hand or even a segment of language は挿入句的に考えないと意味が通らないことに注意。

as we might point at a hand or even a segment of language  
and say, "This is what consciousness is".

とも一見考え得るが、手や言葉の一節を指して、「これが意識というもの」と言うことは明らかに本文内容と矛盾する。よって a, b は間違い。

そして、手（や言葉の一文節）を指して、「これが手（言葉）というものです」と言うことはできることから、c では文意がおかしくなる。

④ above all が「何よりもまず；とりわけ」という意味の熟語であることは知らなければならない。そして stem from ~ は「～に由来する」という意味であり、答えは d に決まる。もっとも本設問は、各選択肢を読んでみて d がもっとも常識的に妥当な意味内容になっていることからも類推可能である。

- (2) ⑤ The mystery has led many to regard it as an manifestation of a nonphysical soul.  
└ that surrounds it

②と③の it は前文の It や its と同じものを指し、さらにその前の文の主語 Consciousness を指している。なお、① that は the mystery を先行詞とする主格の関係代名詞である。

④このような長い文については、まずもって、, however, や, for example, もしくは — in some arrogant sense its “owner” — 等の挿入表現は取り除いて考えるべきである。そして、for example という挿入句により具体例が書かれていることがわかれれば、この設問はさほど難しくない。すなわち、an internal representation of the larger world の具体例が、

knowing { that it is located in a geographic area  
└ in which there has been ~,  
that resources for local irrigation have been ~,  
that I am concerned about its fate,  
and so on

である、と読めるからである。

前半の構造は

① It does not possess an internal representation

of [the larger world]  
└ in which ② it is situated,

となる。また、① It と ② it と ④ it はすべて my oak tree を指す。以上のことから d が正解。

- (3) ここでも接続詞に着目して構文を考えればよい。

- ④ When the soil contains insufficient moisture,  
└ in which it is embedded

physical processes cause { its leaves to dry out,  
its roots to shrivel,  
└ and its growth to be reduced  
within the tree

(h) It was constructed

on the basis of my own  
contacts with  
and  
reactions to the world,

and

the ways are necessarily of a kind

in which I interpret that world that serves my own interests

- (4) 下線部①に「文」が来るならば, I believe all of them are missing from the tree. とでもなろうか。しかし, 英語においては文と文は接続詞を用いて連結しなければならない。そこで, 「接続詞 + S V」の形になるはずであるが, 下線部①は, all で始まっている。すなわち, 下線部①には接続詞の働きを持つ品詞である関係詞, もしくは接続詞が省略された形である分詞構文が来ると考えられる。そして, 分詞構文では I believe を挿入するのは不自然であることから, 関係代名詞を使って, all of which I believe are missing from the tree とする。

I believe がこの位置に来ることは,

The girl who I thought was his sister turned out to be his daughter.

(= The girl whom I thought to be his sister turned out to be his daughter.)

というような文から容易に推測可能であろう。

- (5) ⑧ avoid は目的語に動名詞のみ取る動詞（すなわち to 不定詞は目的語になれない）として有名である。他に動名詞のみを目的語にとる動詞には, finish, resist, deny, mind, enjoy, fancy, practice などがある。

① devote A to B で「AをBに捧げる」という意味であるが, このでの “to” は前置詞である。すなわち, “to” の後には動名詞を続ける必要がある。

- (6) 「木とヒトとの違いに触れつつ」とあることからも, それが対照的に述べられている箇所に着目することにより「意識」とは何かが見えてくる（以下はその対比）。

ℓ. 15 Every human being possesses a complex internal model of reality.

と

ℓ. 17 ~ my oak tree does not possess such a model

ℓ. 19 It (= my oak tree) does not ~ possess an internal representation of the larger world ~

ℓ. 24 it (= my oak tree) has no internal representation of ~

と

ℓ. 26 Within me there is a great deal of information about the larger context ~

ℓ. 29 It (= my model of the world) is necessarily a model from my *point of view* ~

ℓ. 30 It (= my model of the world) was constructed on the basis of my own contacts ~  
と

ℓ. 33 I believe the tree does not possess any self-awareness of this kind.

ℓ. 38 Consciousness is an active focusing on a small part of the conscious being's self-centered model of the surrounding world.

と

ℓ. 40 the oak has no model of its environment centered on its own place within it ~  
を参考にまとめればよい。

全訳

控えめに言っても、意識はたやすく特徴付けられるものではない。それはもちろん「もの」ではまったくない。手やまたは言葉の一文節を指差すのと同様に、何かを指差して、「これが意識というものです」などと言うことはできない。意識は目覚めている間やそしてしばしば睡眠時に、我々が絶えず経験しているものである。それは我々の存在のまさに中核を成すが、その正確な本性を我々は捕らえられないでいる。意識を巡る神秘のために、多くの人々は意識を非物質的な靈魂の現れと見なすようになった。しかし、たとえ私たちがそのハードウェアとかウェットウェアのみを理解することそれ自体で意識の特性を理解することができないとしても、意識が我々の神経生理学の理解を超えた何かから現れると信じる必要はない。意識の捕らえどころのなさはとりわけ、それが内的な現象であり、実際にそれを体験する人にしか直接観察することはできないという事実に由来する。もっとも別の問題もあった。意識はいかにしてそれ自身を観察するのかという問題である。どのようにすれば、我々は意識を経験でき、同時に私たちが意識を経験していることを意識できるのだろうか。この問題はそのことを考えてきた人たちを困らせてきたし、それゆえさまざまな回答への刺激となってきた。

すべての人類は現実世界の複雑なモデルを内部に有している。それを世界觀と呼ぼうが知識構造と呼ぼうが、このモデルは世界に対抗する人間の方法としては不可欠である。私の樺の木はそのようなモデルを持たないと信ずる。木が根付いている土壤に十分な水分が含まれていない時、その木の物理作用によって葉は完全に乾き、根はしなびて、その成長も衰弱する。しかしながら、その木が置かれているより大きな世界についての内的な表現は具有していない。例えば、6年間ほとんど雨が降らなかった地理的地域に位置していることや、その地域の灌漑のための供給源が激烈に減ってきたことや、私は（少しばかり傲慢な意味でその「所有者」であるが）その運命について懸念している、などなどの事柄を「知っている」というようなことを。もし今の雨が充分に長く続くならば、その葉や根や生育は恩恵を受けるであろうが、しかし、この雨についてその始まりやどのくらい続くのかについての内部からの表現はないし、未来に対する懸念や希望もない。私の中には、感情や欲望とともに、干ばつや雨のより大きな状況についての膨大な情報があるが、私が信ずるには、木にはそれらのすべての事柄は存在しないのである。さらに、そして重要なことには、私の世界像は私の周りに中心を置くことを避けられない。それは必然的に私の見地からのモデルである。すなわち私自身の肉体的そして社会的な要請と欲求と同様に、空間と時間における自分自身の場所に対して相対的なのである。私の世界觀は、私自身が世の中と触れ合い、そして世の中に反応することに基づいて構築されたのであり、私がその世界を解釈する手法は必然的に私自身の興味に報いるようなものとなる。私の信ずるところでは、木はこのような類いの自己認識は持っていない。

このようなところに意識はうまくはまり込むのだ。すべての人は自らが中心位置を占める、より大きな現実をかたどろうとするが、ある時期にそのかたどられたモデルのたった1つの小さな断片しか活動的であり得ない。ある特定のどんな瞬間においても、心はそれが「知っ

ている」すべてのうちのほんの小さな断片1つにのみしか焦点を当てることができない。たぶん私はここで意識という言葉を、この制限された活性化の過程に言及するために使用しているのだ。意識とは、意識という存在が周囲の世界に対して自己を中心としたモデルを作り、そのモデルの小さな部分に積極的に集中することなのである。もし桜の木が、その中で自分の場所を中心に置く環境に対するモデルを持たないならば、それは意識もまた持ち得ないのである。

**注**

- ℓ. 8 ◇ wetware 「ウェットウェア（ソフトウェアを考え出す人間の頭脳）」
- ℓ. 9 ◇ elusiveness 「捕らえどころのなさ」  
*cf. elusive adj.* 「捕らえどころのない」
- ℓ. 23 ◇ arrogant 「傲慢な」

**【3】**

**ポイント**

今回の自由英作文は命題にはっきりと賛否いずれかの立場をとって論を展開させるもの。簡単な英語でよいので、自分の考えや主張を明確に記すこと、さらに自分の立場を立論する理由を挙げることが重要である。そのためにも、日頃から新聞やTVのニュースに触れて世論の流れや社会通念を頭に入れておくことが望ましい。

**解答例**

(動物実験に反対する例)

In my opinion, using animals for laboratory experiments is wrong for the following reasons. First, human beings should not place themselves above animals. Some people may cite human intelligence to assert their superiority over animals, but every species equally has its own right to exist on the earth. We have no right to kill or injure other species ruthlessly, exclusively for the benefit of our own. Secondly, with computer technology, it is possible to provide alternative methods to the use of whole living animals. I hope that scientists and drug companies will soon realize it is no longer necessary to use living animals for laboratory experiments. (106語)

**別解**

(動物実験の必要性を支持する例)

I agree with the use of animals in laboratory experiments for the following reasons. First, without animal experimentation, many new medicines and treatments would never be developed. No one wants to hurt animals, but it would be far less acceptable to test dangerous new medicines on human beings. It is true that animals should be treated as humanely as possible, but in order to reduce human suffering it is sometimes necessary to use animals. Secondly, it is not only human beings that benefit from such experiments but also the animals themselves. Many advances in veterinary science have come about through experiments on animals thereby reducing animal suffering as well. (109語)

**別解**

(動物実験自体に懐疑的な立場をとる例)

We must stop using live animals in laboratory experiments. Some people may say, "If we couldn't use animals, we would have to test new drugs on people," but there's no guarantee that drugs are safe just because they've been tested on animals. Results from animal tests are not necessarily applicable to the human body. Isn't there any fear that we would be left vulnerable to exposure to drugs that can cause serious side effects? There have been many drugs, marketed after being tested on animals, that caused deaths and serious injuries. Such drugs were consequently removed from the market. Animal testing does little to improve human welfare. (107語)

**解説**

「動物を室内実験に使うべきではないと考える人もいるが、これについて賛成か反対か。」というテーマの賛否型の問題である。まずは賛成か反対のいずれの立場であるかを表明し、続いてその理由を挙げることになる。

なぜ賛成〔反対〕なのかをいかに説得性を持たせて論じられるかがポイントとなる。いきなり書き始めるのではなく、考えられる理由・根拠を書き出し、その中から説得力があり、かつ英語で書きやすいものを選ぶという手順を踏むと一貫性のある文章が書けるようになる。動物実験に反対する理由としては以下のような主張が考えられるだろう。

1. そもそも人間には動物実験をする権利があるのか。動物の権利はどうなるのだろうか。  
人間が受ける恩恵が他の種の犠牲の上に成り立ってよいはずがない。
2. コンピュータモデルなどの代替法を、動物実験の代わりに使うことができるはずである。
3. 動物実験によってすべての必要な情報が得られるとは思えない。また、最終決断が動物実験だけに基づいて行われてはならない。

次に、動物実験を擁護する理由としては以下のようものが考えられる。

1. 動物実験こそが重要な医学上の進歩をもたらした。
2. 新薬が開発された場合に、それを直接人間に投与するのは危険である。この場合、動物を使用するのはやむを得ない。
3. 獣医学の発展など、動物実験の結果が動物に対して恩恵を与える場合もあるのではないか。

いずれの場合でも、「私は～に賛成〔反対〕である。その理由は第一に…、第二に…。」というように、自分の立場・論点を明確にすることが重要である。

**[4]**

**解答**

- (1) d      (2) b      (3) c      (4) d      (5) b      (6) b

**解説**

(1) d 「彼の家はバス停から 2 キロ西へ行ったところにある。」

○ west of ~ = to the west of ~ 「～の西に」

two miles は副詞相当語句で「2マイル分だけ」の意味。

a dropped at → dropped in at

- drop in at 「～にちょっと立ち寄る」  
 ⇒「家に帰る途中、我々はベンの家にちょっと立ち寄った。」
- b with us → for us [または provided us with much information にする。]  
 ○ provide A with B 「A (人) にB (物) を与える」  
 ⇒「彼らは我々に情報をたくさん与えてくれた。」
- c by → in  
 ○ in A's car 「Aの車で」  
 ※ by を用いるなら by car となる。この場合は、car という交通手段を表すので、抽象概念で U。  
 ○ downtown 「繁華街へ」  
 ※ downtown は名詞 U でも用いる。その場合の意味は、「商業地区」。  
 ⇒「私たちは私の車に乗って繁華街へ買い物に行った。」
- (2) b 「ここで煙草を吸ってもいいですか。」  
 ○ Do you mind if (直説法) …? 「…してもいいですか。」  
 (≒ Would you mind if (仮定法; 直説法) …?)  
 mind は「～を嫌がる」の意なので返事をする際に嫌な場合は yes で、嫌がらない場合は no で答える。
- (3) c 「彼はまずめったに学校に遅刻しない。」  
 ○ seldom, if ever 「仮にあるとしてもめったにない」(譲歩)  
- a nothing → anything  
 hardly と準否定語があるので anything にする。  
 ⇒「暗闇で私はほとんど何も見えなかった。」
- b No → Yes  
 英語の問い合わせに対する答えは、肯定疑問・否定疑問など質問の形式にかかわりなく答えの内容が肯定であれば Yes, 否定であれば No を用いる。  
 ○ Won't you …? 「…しないのですか。」(否定疑問)  
 ⇒「映画に私たちと一緒に行かないのですか。」「いいえ、もちろん行きます。」
- d ago → before  
 過去のある時点を基準として「(その時から) ~前」という時は before を用いる。  
 ago は発話時を基準として「(今から) ~前」。  
 ○ to find … (結果)  
 ⇒「彼が到着すると列車は5分前に出発してしまっていた。」
- (4) d 「ビルは風変わりすぎて、誰も彼と仲良くやっていくことができない。」  
 ○ too ~ for A to … 「Aは…するのにはあまりにも～」  
 ※この to 不定詞は‘基準’を表す。  
 ○ get along with ~ 「～と仲良くやっていく」
- a to swim → swimming  
 enjoy は目的語に不定詞をとらない。  
 ⇒「北極グマはプールでの遊泳を楽しんだ。」

- b** talk → talk to [with]  
 「人と話し合う」の意では talk は自動詞なので前置詞が必要となる。  
 ⇒「彼は話をするのにとても面白い人だ。」
- c** carry → carrying  
 ○ be opposed to …ing 「…することに反対している」 ※ to は前置詞。  
 ⇒「彼はその新しい計画を実行することに反対している。」
- (5) **b** 「彼は本道を外れたところに駐車した。」  
 「～から外れて」の意の off。
- a** until → by  
 本文のように「～までには」という‘期限・限界’を表す場合は by を用いる。  
 until は「～までずっと」という‘継続した状態の終点’を表す。  
 ⇒「私は明日までに仕事を終わらせるように努力する。」
- c** at → on  
 ‘特定の面（の一部）の上に接触している’状態を表す前置詞は on。  
 ⇒「ジョンは天井にハエがとまっているのを見た。」
- d** on を削除  
 this, next, last などが前に付く「時」の表現では前置詞を用いない。  
 ※ on Sunday next なら可だが文語体。  
 ⇒「来週の日曜日にまたお会いしましょう。」
- (6) **b** 「ジョンは新しいカメラに非常に満足している。」  
 ○ happy with ~ 「～に満足して」
- a** pleasant → pleased  
 pleasant は「人を快く感じさせる」 (= pleasing ; giving pleasure) の意味で、  
 (×) feel pleasant は不可。  
 ⇒「そのニュースを聞いた時とてもうれしかった。」
- c** with を削除。  
 ○ be delighted that 節 「…ということに喜ぶ」  
 ⇒「彼女が来てとてもうれしかった。」
- d** exciting → excited  
 exciting は「人を興奮させるような」 (= arousing great interest or enthusiasm; stirring) の意。  
 ⇒「我々はその試合に興奮した。」

## 【5】

A.

### 解答

- |                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| (1) <b>b</b> has won → had won | (2) <b>a</b> make → making |
| (3) <b>d</b> good → better     | (4) <b>d</b> in を削除        |
| (5) <b>c</b> it を削除            |                            |

**解説**

- (1) 過去のある一時点までの完了を表すので過去完了形にする（大過去）。  
⇒「6月の終わりまでに我々のチームは15勝をあげたが、7月中には1勝もできなかつた。」
- (2) 「…することに慣れている」は be used to …ing で表す。  
⇒「アメリカ人は、大型車の製造に慣れているため、燃費のずっといい小型車製造に適するよう工場を変えるのを難しいと思う。」
- b find it difficult to … 「…するのを難しいと思う」  
it = to … 以下。  
○ adjust A to B 「AをBに適合させる」  
= adapt [accustom ; accommodate] A to B
- d that は関係代名詞。先行詞は compact cars。  
far は形容詞の比較級、最上級を強める副詞。
- (3) 比較されているのは smaller companies located near rivers と those (= the smaller companies) (located) far from rivers の condition のよさの度合いであるので、good を比較級 better にしなければならない。  
○ smaller は「絶対比較級」（漠然と程度を表す表現）。  
⇒「ブラジルの状況を見ると、川のそばにある中小企業の方が川から離れたところにある中小企業よりもよい状態にあるということがすぐにわかる。」
- (4) which は the region を先行詞とする関係代名詞で、occupied の目的語として働いている。occupied は他動詞なので前置詞は不要。  
○ Native American 「アメリカ先住民」  
⇒「アメリカ先住民の力はより強まり、ついにそれらの敵が占領していた地域から侵略者を追放することに成功した。」
- (5) which は主格の関係代名詞なので it は不要である。  
⇒「工学を学ぶ学生の一団が、ガソリンの代わりに水を燃料に使う新しいタイプのエンジンを発明した。」

B.

**解答・解説**

- (1) c 「娘は大学を1年間休学した。」  
○ take ~ off 「～（=ある期間・日）を休暇として取る」  
a 「娘はその1年前に大学に通うのを止めた。」  
b 「娘は1年前に大学に通うのを止めた。」  
c 「娘は1年間大学に通うのを止めた。」  
d 「娘は1年内に大学に通うのを止めた。」
- (2) a 「その行楽地にはたいして何もなかった。」  
○ did not have much to offer 「提供すべきものがあまりなかった⇒たいしたところではなかった」  
a 「その行楽地はあまり人を引きつけなかった。」

- b 「その行楽地はあまり有名ではなかった。」
  - c 「その行楽地はあまり人気がなかった。」
  - d 「その行楽地はあまり安全ではなかった。」
- (3) c 「仕事における成功の代償として彼は病気になった。」
- price ①「価格」②「代償」
  - a 「彼は病気だったが、仕事において成功した。」
  - b 「彼は仕事で成功しないで病気になった。」
  - c 「彼は仕事において成功したが、結果として病気になった。」
  - d 「彼がもし病気にならなかったら、仕事において成功したであろう。」
- (4) b 「我々は桜の花がまだ咲いているうちにワシントンに到着した。」
- in time for ~ 「～に間に合って；遅れずに」
  - a 「ワシントンに向かって出発するや否や、満開の桜を見ることができた。」
  - on …ing 「…すると同時に」
  - leave for ~ 「～に向かって出発する」
  - b 「我々は桜の花を見ることができる時期にワシントンを訪問した。」
  - c 「春には時折ワシントンへ花見に行ったものだった。」
    - would 「…したものだった」(過去の習慣)  - d 「我々は桜が満開の時にワシントンへと出発していた。」
- (5) d 「メアリーは死ぬほどヘビを怖がっている。」
- to death ①「死ぬほど；極度に」②「死ぬまで」
  - a 「メアリーはとてもヘビを怖がっているので、ヘビを殺す。」
  - b 「メアリーはヘビが恐くて死にかけている。」
  - c 「メアリーは自殺しそうなくらいヘビに取りつかれている。」
  - d 「メアリーはヘビが大嫌いだ。」
    - have a horror of ~ 「～を嫌う」





E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



会員番号

氏名

不許複製